

平成 28 年度

第1回中心市街地拠点施設整備基本計画策定委員会資料（他都市の事例）

<目 次>

1. ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス（東京都武蔵野市）	1
2. 塩尻市市民交流センター「えんぱーく」（長野県塩尻市）	2
3. せんだいメディアテーク（宮城県仙台市）	3
4. 千里文化センター「コラボ」（大阪府豊中市）	4
5. ルミエール府中（東京都府中市）	5
6. くわなメディアライヴ（三重県桑名市）	6
7. みんなの森 ぎふメディアコスモス（岐阜県岐阜市）	7

平成 28 年 8 月 31 日

四日市市 政策推進部 政策推進課

ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス(東京都武蔵野市)

外観・内観



施設外観と隣接する都市計画公園



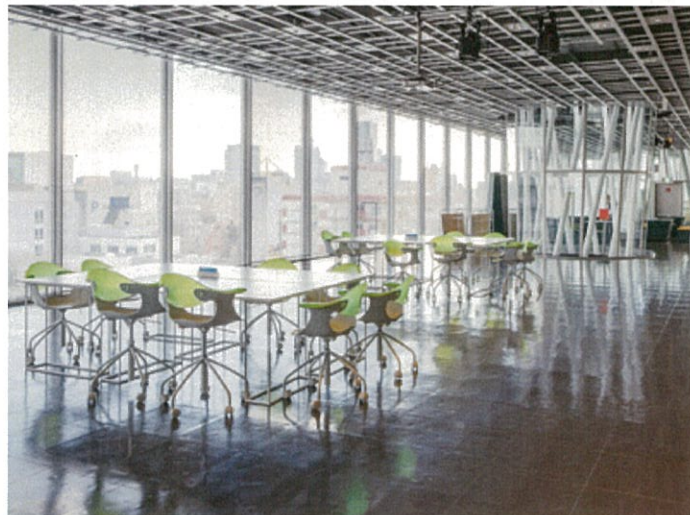
1階 カフェ



3階 市民活動センター

竣工	2010年	立地	JR武蔵境駅南すぐ、農水省食糧倉庫跡地
施設概要	階数:地下3階・地上4階 敷地面積:2,166㎡ 延床面積:9,810㎡ 用途:図書館+生涯学習+市民活動+青少年活動 駐車場:28台(有料) 開館時間:9:30~22:00 休館日:水曜日、年末年始、図書館特別整理日	コンセプト等	【理念】 「武蔵野プレイス」は、図書館、生涯学習センター、市民活動センター、青少年センターなどといったこれまでの公共施設の類型を超えて、複数の機能を積極的に融合させ、図書や活動を通して、人とひとが出会い、それぞれが持っている情報(知識や経験)を共有・交換しながら、知的な創造や交流を生み出し、地域社会(まち)の活性化を深められるような活動支援型の公共施設をめざしています。 武蔵野プレイスは、人々の交流が自然に生み出される質の高い「場」を提供し続けることによって、生活、文化、芸術、自然、歴史、まちづくり、ボランティア活動、市民活動、生涯学習、福祉、教育といった横断的な活動や交流のネットワークの活性化を促します。 多様な人々がそれぞれの活動を通して時間を共有する快適な空間(場)は、地域社会の魅力を高めることに寄与します。 「場」=「プレイス」ということばには、このような期待が込められています。 【アクションの連鎖】が起こる施設をめざして 人々が日常生活において、自主・自発的に読書や学習を継続できる機会や、身近で行われているさまざまな「市民活動」や「アクション」に気軽に触れることができる場が重要です。武蔵野プレイスは、この「気づき」から始まる「アクションの連鎖」が起こり得る「機会」と「場」を提供し、支援していくことをめざしています。 【3つのミッション】 利用者のアクションの連鎖が起こることで、図書館機能、生涯学習支援機能、市民活動支援機能、青少年活動支援機能の4つの機能が複合的に活用されるよう、以下の3つのミッションを軸に支援を行う。 ○情報アクセス支援 ○課題学習支援 ○地域社会活性化支援
図書館	蔵書数16.5万冊(中央図書館は別にあり) ・フロアごとに特色を持たせて、本を配置 ・閲覧席は約300席。 2階 コミュニケーションライブラリー 生活や趣味の実用書、同じフロアにこどもライブラリーもある 1階 パークラウンジ エントランスから続くラウンジ、本の自動貸出・返却機を設置 地下1階 メインライブラリー 図書館のメインフロア 地下2階 ティーンズスタジオ 芸術・美術系、青少年向けの本雑誌など。青少年活動支援のスタジオスペースに隣接している。		
ホール等	・4階フォーラム(最大200人)、3階会議スペース等、3、4階は生涯学習支援、市民活動支援のフロア。 ・地下2階は青少年活動支援のフロア。サウンドスタジオ、パフォーマンススタジオ、クラフトスタジオ等		
特徴など	・図書館、生涯学習支援、市民活動支援、青少年活動支援の機能を併せ持った施設。地下2階を青少年フロアとし、地下2階の一部、地下1階、地上1、2階を図書館フロア、3、4階を生涯学習・市民活動支援フロアとし、多世代が利用する。 ・生涯学習支援では、武蔵野地域自由大学事業として周辺5大学の先生による連続講座等を実施。 ・武蔵野プレイスに隣接して2000㎡の都市公園を一体的に整備。1階中央がカフェで、駅前が憩いの場になっている。	運営	指定管理者(公益法人武蔵野生涯学習振興事業団)
事業費	約82.5億円(うち土地取得費25.5億円)	事業手法	設計コンペ(kw+hg architects)

塩尻市市民交流センター「えんぱーく」(長野県塩尻市)				
外観・内観	    施設外観 図書館 子育て支援センター 市民サロン			
	竣工	2013年7月	立地	JR塩尻駅より徒歩約10分
施設概要	階数: 地下1階・地上5階 敷地面積: 4,937㎡ 延床面積: 11,902㎡ 用途: 図書館＋子育て支援・青少年交流＋シニア活動支援＋ビジネス支援＋市民活動支援 駐車台数: 近隣の市営駐車場を利用 開館時間: 交流エリアは9:00～22:00 総合受付は平日9:00～22:00、土・日・祝9:00～17:00 図書館は平日10:00～20:00、土曜9:30～20:00、日・祝9:30～18:00 子育て支援センターは9:00～16:00 休館日: 交流エリア、総合受付は水曜日、年末年始 図書館、子育て支援センターは水曜、毎月最終月曜(3月は31日)、年末年始		コンセプト等	【基本コンセプト】 「知恵の交流を通じた人づくりの場」 市民交流センターは、知恵と意欲を持つ人が集い、活発に活動・交流することで新たな価値が創造され、さらに多くの人をひきつける場へと進化する知恵の好循環を生み出す。 【基本コンセプト実現のためにセンターが目指すこと】 1. 役立つ情報を提供する 悩みに役立つヒント等、必要な情報を最短ルートで手に入れ、新しい世界に出会う 2. 意欲と活動を応援する 活動を広げる機会が見つかる、活動参加のきっかけがつかめる 3. センター自身が進化する 知恵を蓄積・活用・創造する、地域の価値を見つけて発信する 【愛称「えんぱーく」について】 公募により総数654点の作品の中から6点の候補を選考し、市民による投票の上、最も支持を得た愛称。 「えん」は円(丸い円)、縁(ご縁)、塩(塩尻の塩)を意味する。 皆さんが輪になって、塩尻市を盛り上げ、縁を深めていただきたいという思いが込められている。 「ぱーく」には、公園のように誰でも気軽に立ち寄れる施設であってほしいとの願いが込められている。 親しみやすいように、ひらがなで表現している。
図書館	・蔵書数約35万冊(平成25年度) ・ICタグ、セルフ貸出機設置。 ・塩尻市出身で筑摩書房創業者、古田晁にちなんだ「古田晁文庫」「筑摩書房コレクション」、地域ブランド資料としてワイン、短歌、漆器、重伝建などの資料を所蔵公開している。			
ホール等	・多目的ホール(155席 203㎡)、イベントホール(52席、118㎡)、ICTルーム(32席)、会議室12室、音楽練習室3室、食育室(18人、3台の調理台)			
特徴など	「図書館」「子育て支援・青少年交流」「シニア活動支援」「ビジネス支援」「市民活動支援」の5つの重点分野を設定。 ビジネス支援部門では、市ブランド観光商工課、商工会議所、ハローワーク等が入る。		運営	直営
事業費	約51.6億円		事業手法	市街地再開発事業(市街地再開発組合が建設、床の9割を市が取得して市民交流センターを整備)

せんだいメディアテーク(宮城県仙台市)				
外観・内観	  			
	外観と定禅寺通 3, 4階 市民図書館 7階 スタジオ			
竣工	2001年1月		立地	地下鉄勾当台公園駅より徒歩6分(仙台駅より1.8km)
施設概要	階数:地下2階、地上7階 敷地面積:3,948㎡ 延床面積:21,682㎡ 用途:図書館+ギャラリー・イベントスペース・ミニシアター等 駐車台数:64台(有料) 駐輪台数:100台 開館時間:9:00~22:00 市民図書館は平日10:00~20:00、土・日・祝10:00~18:00 休館日:第4木曜日、年末年始 市民図書館・映像音響ライブラリーは月曜日、休日の翌日、第4木曜日、年末年始、特別整理期間		コンセプト等	【理念】 - 最先端の知と文化を提供(サービス) 利用者の需要にフレキシブルに対応します。 - 端末(ターミナル)ではなく節点(ノード)へ ネットワークの利点を最大限に活用します。 - あらゆる障壁(バリア)からの自由 健全者と障害者、利用者と運営者、言語や文化などの障壁を乗り越えます。 【サービス】 - ギャラリーやシアターなど、表現の空間の提供 美術作品・映像作品の発表や鑑賞 - スタジオやワークショップなど、活動の空間の提供 メディアを活用した生涯学習や、文化的な活動 情報活用支援、ボランティア支援(目や耳の不自由な方々の情報技術活用、ボランティアの活動支援)などの活動 - 映像・デジタルコンテンツの創造やメディアに関するワークショップ活動 - 最新の知識や情報の提供 仙台市民図書館 美術文化・映像文化の調査研究と映像音響ライブラリー 目や耳の不自由な方のライブラリー 視聴覚教材のライブラリー - だれもが情報を収集し、蓄積し、編集し、発信のできる環境の提供
図書館	「仙台市民図書館」3~4階 仙台市内に7つある図書館の1つで、中央図書館的な機能を有している。 蔵書数55.1万冊、閲覧席136席 「ライブラリー」2階 目や耳の不自由な人への相談カウンターや映像音響ライブラリー、市民図書館の児童書コーナーが配置されている。 「集密書庫」地下2階 30万冊収納可能な閉架書庫がある。3階と地下2階を結ぶダムウェイター(図書運搬用の昇降機)により本を運ぶ。			
ホール等	「スタジオ」7階、「ギャラリー」5~6階 スタジオ(情報発信や創造的活動の場、7階) ギャラリー4200(天井高が4.2mのオープンな展示空間、6階) ギャラリー3300(天井高が3.3mの固定壁で6つに仕切られたギャラリー、5階)、映像音響ライブラリー・相談カウンター(2階)など			
特徴など	・13本の鉄骨独立シャフトと鉄骨フラットスラブで各階異なる平面計画を採用し、全面がガラス張り で外から直接見える一方で中からもケヤキ並木の定禅寺通を見渡せるなど建築的な特徴はもち ろんのこと、「メディア・情報」をキーワードとして美術や映像文化の活動拠点として様々なプログラ ムを展開していることでも知られている。 ・バリアフリー支援も実施。		運営	指定管理者(公益財団法人仙台市市民文化事業団) 期間:平成24年4月1日から平成29年3月31日
事業費	約130億円		事業手法	設計コンペ(伊東豊雄建築設計事務所)